

ペネロピ

2008(平成20)年1月24日鑑賞(GAGA 試写室)

★★★



監督＝マーク・バランスキー／製作＝リース・ウィザースプーン／スコット・スタインドーフ／ジェニファー・シンプソン／出演＝クリスティーナ・リッチ／ジェームズ・マカヴォイ／キャサリン・オハラ／リチャード・E・グラント／ピーター・ディンクレイジ／サイモン・ウッズ／リース・ウィザースプーン（東京テアトル、デスベラード配給／2006年イギリス映画／101分）

第2章

映像が先か、活字が先か

……ペネロピが豚の鼻と耳をもって生まれてきたのはなぜ……？ その呪いを解く方法は……？ そんなおとぎ話をギャラ・ランキング1位のリース・ウィザースプーンがプロデュースしたのは、その強いメッセージ性のため。人間、とりわけ女の子は見かけが大切。でも、それ以上に大切なものは……？ ありのままの自分を探すペネロピの旅の果てには、一体どんな感動が……？

ギャラ No. 1 女優がプロデュース業にも！

並みいるハリウッドの大女優の中で、2007年のギャラ・ランキング1位に輝いたのが、『キューティ・ブロンド』（01年）、『キューティ・ブロンド ハッピーMAX』（03年）と順調に出世してきたリース・ウィザースプーン。ちなみに、2位アンジェリーナ・ジョリー、3位キャメロン・ディアス、4位ニコール・キッドマン、5位レネー・ゼルヴィガーだから、失礼ながら少し意外な感も……？

そんなリース・ウィザースプーンはプロデュース業にもご熱心で、自らのプロダクション会社「タイプA・フィルムズ」を設立するとともに、『キューティ・ブロンド ハッピーMAX』に続いて本作もプロデュース。ちなみに、彼女は『ペネロピ』にはアニー役として出演しているが、これはペネロピの引き立て役だから、そんな場合の彼女の出演料は How much？

アメリカのこんな才能ある女優の活躍に比べると、日本の女優陣は一体ナニを……？

このおとぎ話には、ある強いメッセージ性が

1月22日に観た『魔法にかけられて』(07年)は、アニメと実写の融合という新たな試みがあり、かつ予想を覆すカップルの誕生という意外性があったが、なおウォルト・ディズニーの古典的な魅力と古典的なストーリーの延長線にあるおとぎ話だった。したがって、あと1年で還暦を迎えようとしているおじさんには、それを素直に楽しめるかどうか問われたが、『ペネロピ』はこのおとぎ話そのものに、ある強いメッセージ性がある。

私の学生時代に流行したフォークソングは、単にみんなが輪になって集まり歌って楽しむというのではなく、作詞作曲家や歌手たちのさまざまなメッセージを伝えるためのものだった。それと同じように、おとぎ話でも「王子さまとお姫さまが出会い、多くの困難をはねのけて結婚し、幸せに暮らしましたとサ」というだけではメッセージ性に欠けるもの。その点、『ペネロピ』はある強いメッセージ性のあるおとぎ話。

映画の冒頭に語られるように、ペネロピが豚の鼻と耳をもって生まれたのは、ウィルハーン家に古くから言い伝えられてきたある呪いのため。つまり、5代前の当主ラルフ・ウィルハーンが使用人の若い女性クララに手を出し妊娠させたにもかかわらず、彼女を捨てて名家の娘と結婚したため、クララが崖から身を投げて死んでしまったのだ。そこで悲しみに沈んだクララの母親が怒りにうち震えながら、「次に生まれる娘は豚の鼻と耳になれ」と呪いをかけたというわけだ。

ペネロピが生まれるまでその呪いが現実化しなかったのは、たまたまウィルハーン家に生まれてきたのが男の子ばかりだったため。したがって、遂に生まれてきた女の子のペネロピが1人そんな呪いの被害を受けることになったわけだ。呪いを解く方法はただ1つ。それは「お前たちの『仲間』が、娘に永遠の愛を誓うこと」だが、豚の鼻と耳という化け物顔の娘では……？

さてそんな、おとぎ話的ストーリーの中に秘められたある強いメッセージ性とは……？

クリスティーナ・リッチの勇気ある決断に拍手！

女性は常に美を探求している動物(?)だから、いくら演技とはいえ、変な顔、変なメイクでスクリーン上に登場するのは避けたいはず。しかし、1980年生まれの美

人女優クリスティーナ・リッチは、あえて豚の鼻と耳をつけた顔で堂々とスクリーン上に登場！ お見合いの相手となった男たちがことごとく、ペネロピの顔を一目見ただけで逃げ出していく、というほど恐ろしくはないが、仮に私が彼女と見合いをしても絶対願い下げだと思わず。

クリスティーナ・リッチがそんな勇氣ある役に出演したのは、彼女が『モンスター』(03年)で共演したシャーリーズ・セロンが体重を13kg以上増やし、ひどいメイクでまさにタイトルどおりの「モンスター」女アイリーンを演じたことに刺激されたため……？ ハリウッドを代表するあの美人女優があんな役柄にあれば体あたりでチャレンジしたことに比べれば、クリスティーナ・リッチが豚の鼻と耳をつけたメイクをするくらいはチョロイもの……？

『モンスター』でクリスティーナ・リッチはアイリーンと共に逃避行を続ける悪女セルビーを演じたが、これがきわめて魅力的な悪女だった(『シネマルーム6』238頁参照)。そんな演技力と美しさを兼ね備えた若手女優クリスティーナ・リッチの勇氣ある決断に拍手！

障害児が生まれた場合、あなたなら……？

奇形や難病など生まれながらの障害児をもった両親は大変。ペネロピの父親フランクリン(リチャード・E・グラント)は比較的素直にその現実を受け入れたようだが、名門であることにこだわる母親ジェシカ(キャサリン・オハラ)は、誰よりもショックを受け苦しんだよう。

そんなジェシカの「子育て戦略」は、娘を世間の目から隠すこと。そのために彼女がとった基本政策は次の4点。すなわち、①ペネロピを死亡したと偽装すること、②ペネロピを屋敷から一歩も外に出さないこと、③ペネロピに徹底した花嫁修行を授けること、④名家の男性と見合いをさせ、花婿からペネロピに永遠の愛を誓わせること。こんな「隔離政策」は、障害児をもった親なら誰でも一時は考えそうなことだが、子供のためにいいことかどうかは微妙……？

それはともかく、ウィルハーン家の場合①②③は無事成功したが、④は7年間見合いをくり返してもまだ成功しないまま。もちろん、見合いをするについては、もしそれがダメになった場合、ペネロピの容貌については決して口外しないという「口止め契約」つきだが、それが7年間も維持できたのはさすがイギリスの上流貴族社会と感



©2006 Tatira Active Filmproduktions GmbH & Co. KG

心。ところが、今回は……？

一般大衆はゴシップ好きだが……

この映画のストーリー形成の背景は、一般大衆はゴシップ好きだということ。そこで登場する人物はまず、見合いの席でペネロピの姿を一目見て逃げ出した名家のお坊っちゃまエドワード（サイモン・ウッズ）。口止め契約をしないまま逃げ出したエドワードはすぐに警察に駆け込み、「豚人間を見た！」と訴えたが、警察はそれを頭から信用せず、逆に翌日の新聞に「ヴァルダーマン家の息子に妄想癖！」という記事が載る始末。しかし、長年にわたってペネロピのスクープを追っていた記者レモン（ピーター・ディンクレイジ）はこれを信じたから、ここにエドワードとレモンの連合軍による、証拠写真入手のための作戦が開始されることに。

さらにそこに加わった第3の男がマックス（ジェームズ・マカヴォイ）。名家の生まれだが、今は落ちぶれたギャンブラーに成り下がっている彼は、見合いの席でうまくペネロピの写真を撮ることができれば5000ドルという報酬につられてその作戦にのことに。豚の鼻と耳をもったペネロピの写真を撮ればこちらのもの。ゴシップ好きのロンドン市民たちにその記事はバカ売れになるはず。レモンがそうふんだのは大

正解、そしてマックスは簡単に自らの任務を遂行、と思ったが……。

「見合い」とはいえない「見合い」でも……？

「見合い」は互いに顔を合わせるから「見合い」だが、これまでペネロピの見合いが成立しなかったのは、一目見た瞬間に求婚者だったはずの男が逃げ出したため。しかし、今回の新しい試みである「集団見合い」では、他の男はみんな逃げ出したのに、マックスだけは例外で逃げ出さなかったが、それはなぜ……？

その後展開される面白いシークエンスが、マジックミラー越しの見合い。つまり、マジックミラー越しにペネロピはマックスの姿を見ることができ、マックスからはペネロピが見えないまま2人だけの語り合いが進んでいくというもの。これは本来「見合い」とは言えないスタイルだが、それでも少しずつ心が通じ合っていたから不思議なもの。

そんな語り合いを経て、遂にペネロピは自らの姿をマックスに見せたが、マックスがペネロピの顔にやさしく触れようとした時、マックスのジャケットに隠されていた隠しカメラが「カシャ！」という音をたててしまった。そのため、慌てたマックスがせっかくのいい雰囲気捨てて逃げ去ることに……。さて、そんな片手落ちの「見合い」から生まれた「中締め」的な結末は……？

ペネロピの一人立ちは……？

ペネロピが今決心したのは、生まれてから1度も外に出たことがないウィルハーン家のお屋敷を飛び出し、1人で生活すること。文字どおりの「箱入り娘」だったペネロピにそんなことが可能……？ と思うのは当然だが、今ドキはカードという便利なものがある。限度額なし、無制限という打ち出の小槌のようなウィルハーン家のカードさえあれば大丈夫……？

映画後半のハイライトは、ピンク系の多色使いの長いマフラーで鼻を隠したペネロピの一人立ちの旅。たしかに鼻をモロに見ているとあまり気分はよくないが、そんなマフラーで鼻を隠したペネロピのファッションは結構カッコいいから、ひょっとしてこんなペネロピファッションがこれから流行るかも……？

ペネロピの家出を知った両親とりわけジェシカは驚き、直ちに搜索願を出したが、家出人の姿カタチを説明できないのでは搜索はお手あげ。そこから生まれてくる後半

のドタバタ劇(?)がジェシカからの捜索と、エドワード、レモン連合軍による捜索だが、プロデューサーとなったリス・ウィザースプーンがアニー役に扮して後半新たに登場してくるから、これにも注目!

ずっとマフラーを巻き続けることは不可能だから、いずれどこかでその姿が公衆の目にさらされることになるはずだが、後半のストーリーのハイライトはそんなところに。

ホントに呪いは解けるの……?

ペネロピの呪いを解く方法はただひとつ、良家のお坊っチャまがペネロピに永遠の愛を誓うこと。そのためにペネロピの母ジェシカは涙ぐましい努力をし、ペネロピは何年間もそれにつき合い、1000回分の見合いをくり返してきたわけだ。しかし、今ペネロピがお屋敷を飛び出して一人立ちを目指したのは、そんな自分にウンザリしたため。

ところが、豚の鼻と耳を持ったペネロピの姿が新聞に登場するや、たちまちロンドンにはペネロピブームが生まれ、何とペネロピは一躍有名人(アイドル?)になってしまうことに……。こんな風に、それまで全く想像もできなかった展開になるところがこの映画の面白いところ。さて、そんな状況の中、ペネロピの呪いはホントに解けるの……? そしてそれは、いつ、どんな状況下で……?

そんな疑問と期待を持ちながら最後までこの映画を楽しみたいもの。そうすれば、なるほど、このおとぎ話にはこんなメッセージ性があったのか、ということがよくわかるはずだから。

2008(平成20)年1月28日記

タイガー・ウッズの優勝に感動！

小泉総理が就任直後の2001年5月の大相撲夏場所で、前日のケガをおして出場し22回目の優勝を飾った横綱貴乃花に対して「痛みに耐えてよく頑張った！ 感動したっ！ おめでとう！」と絶叫したが、私はタイガー・ウッズの全米オープン6年ぶり3度目の優勝に「感動したっ！」

タイガーはトリプル・グランドスラム（マスターズ、全米プロ、全英プロ、全米オープンのメジャー4大会をすべて3勝以上）達成の偉業を賭けて6月13日から4日間の試合に臨んだが、左ひざ手術後の復帰第1戦となったため不安がいっぱい。そんな不安どおり、初日の1番ホールをダブルボギーとし、波乱のスタートとなった。また3日目、4日目は悪化した左ひざの苦痛に顔をゆがめたり、歩くのさえ痛々しい場面が何度も。そのため、ドライバーショットは大きくぶれ、深いラフやバンカーはもちろん、林の中などトラブルの連続。ところが、ロングホールでの奇跡的な3度のイーグルと勝負どころでの執念のパットによって、首位争いに食い込んだ。そして72ホール目で執念のパーディーパットを決めたタイガーはプレーオフへ進出することに。

翌日、45歳のベテラン、ロッコ・ミ

ーディエートとのプレーオフも18ホールの死闘で決着がつかず、結局サドンデスでの19ホール目で遂にこの強敵を下すことに。

複雑な場面での冷静な判断力、危機的状況下での驚異的な反発力、そして勝負どころでのショットやパットを的確に決める精神力に裏づけられた技術力。まさに「これぞプロ！」の神髄を日本のゴルフファンに見せつけてくれた。日本では、宮里藍、横峯さくら、上田桃子ら若手の活躍で女子プロ人気盛りあがり、大会ごとにさまざまなドラマを見せてくれる。しかし、安易なパーパットを相手が外したため、柵からぼた餅的に優勝が転がり込んでくるなど、安っぽいTVドラマの延長のようなシーンも時々……？ しかし、今年の全米オープンが見せてくれた真剣勝負＝人間ドラマはホンモノで「これぞ人生！」と教えてくれる感動モノ。今田竜二の健闘を含む多くの選手たちによる4日間の死力を尽くした真剣勝負と日本では真夜中に放映された18ホール、いや19ホールのプレーオフでの2人の死闘を見逃した方は、是非VTRでその感動を！

2008（平成20）年6月18日